



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代朝鮮語における接頭辞내리について
Author(s)	門脇, 誠一
Citation	北海道大學文學部紀要, 47(3), 1-31
Issue Date	1998-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33730
Type	departmental bulletin paper
File Information	47(3)_PL1-31.pdf



現代朝鮮語における接頭辞내리について

門 脇 誠 一

はじめに

本論は、現在進行中の現代朝鮮語の接頭辞に関する研究の一環として、門脇(1997)⁽¹⁾で行った 接頭辞내의 分析に引き続き、接頭辞내리に関する分析を行うものである。

朝鮮語の語構成に関する研究は、志部(1992)の指摘にもあるとおり、これまでほとんど手を付けてこられなかった分野である。金倉燮(1996)の参考文献を見ても、複合動詞、複合名詞を扱ったものが多く、派生語については、接尾辞を付加して派生される用言を扱ったものが目に付くが、接頭辞を付加して派生される用語に焦点を当てて扱ったものは見えないようである。

さて、ある種の動詞語基に付いて、「方向・強調」の意味を付加する性質を有する接頭辞としては、내리의他にも올리, 치, 내, 들이などをあげることができる。これらの接頭辞は、치를除いて、もともと내리다「降りる・降ろす」올리다「上げる」내다「出す」들이다「入れる」のような自立語に起源を持つものと考えられているものである。⁽²⁾

ここで扱う接頭辞내리는、「上から下へ」「勢いよく・やたらに」という「方向」と「強調」の意味を語基の意味に付加するという性質を持っているものである。

本稿で扱う接頭辞내리に関して、もう少しはっきりと全体像が見えるように説明を加えれば次のようになる。

朝鮮語の내리다は、まず自動詞・他動詞両用の用法を有し、自動詞の場合

は、日本語の「降りる、下がる、下る」にほぼ対応し、他動詞の場合は、「降ろす、下げる、下す」にほぼ対応するが、次のような用法もある。

自動詞 신이 내리다 「神が降りる」(神憑りの状態になる)

他動詞 임금이 신하에게 시호를 내리다 「王が臣下に諡号を下賜する」

また、一方では、내려가다「降りていく」내려오다「降りてくる」のように複合動詞の先項動詞として現れ、他方、뛰어내리다「飛び降りる」굴러내리다「転がしておろす」などのように複合動詞の後項動詞としても現れる。ここまで見た限りでは、내리다が自動詞・他動詞両用の機能を有している点を除いて、日本語とたいして変わるところはないように見えるが、他方、내리다には、その語幹がある種の動詞に前接して、「方向・強調」の意味を付加するという用法もあるのである。

例 햇빛이 내리쬘다 「日光が勢いよく降り注ぐ」

さらに、내리다の連用形내려も同様の意味で使用されることがある。

例 칼을 내려쳤다. (刀を振り下ろした)

そして、上の내리쬘다に対しては、내리쬘다の形が、내리치다に対しては내리치다の形がそれぞれ交替可能という具合になかなか複雑である。

本論は、主として接頭辞내리の機能に焦点を当てて考察するが、必要に応じて、내려形との関連性についても触れるところがある。

ところで、この내리形は、今回協力してもらったインフォーマントによると、少し硬い感じのする語で、どちらかと言えば文章語であり、叙述・説明文の中で使用されることが多いとのことであった。⁽³⁾調査と並行して収集し

た用例は予想していたとおり、ほとんどが随筆・歴史小説などの叙述説明文からのものである。ただ、以前調査した接頭辞내리に比べると文献に現れる頻度数はかなり低いという印象を受けた。今回の調査に関しては、まず、韓国・北朝鮮、中国で出版された辞書の中から関係する単語を選び出し、リストを作成した。そのリストを検討してみると、特に中国・北朝鮮から出ている辞書から収集した単語の中に、インフォーマントが使用しないというものが少なからず見られた。しかし、記載されている関連語の数は『中』が最も多く、しかも、この辞書は、1993年までの文献を紹介した『朝鮮語研究 文献目録』⁽⁴⁾にも載っていないので、関連語彙にどんなものがあるかを紹介するという意味も兼ねて、この辞書に出ているものを中心にリストを作成し、そのうち、3人ともに使用しないと答えたものは調査対象から除外した。一方、参照した辞書に登録されていない語で、リストに追加したものもいくつかある。

門脇(1997)で、接頭辞 내리について分析した際、意味の上で対立する接頭辞들이と関連させて行ったのと同様、今回の接頭詞 내리についても、意味上対立する올려または치とを関連させて調査を行ったが、全体的な考察をするだけの余裕がなかったので、올려形、치形については個別的に触れるにとどめることにする。

今回の調査でも、やはり、方言の差がかなりあることがわかったし、同じソウル方言でもまた、個人によってかなりゆれがあることもわかった。それ故、1つ1つの調査の結果に対しては、異論が出てくることも予想されるが、なるべくソウル方言の体系に焦点を当てて考察したつもりである。また、前回の接頭辞내리についての調査の時と同様であるが、韓国人3人だけを対象にして出てきた結果だけで、直ちに現代朝鮮語(ソウル方言)の体系を云々することには抵抗を感じるし、常々日本で調査を行うことに対するもどかしさを感じている。いずれ、韓国において広範囲な調査をしなければと考えているところである。

なお、今回協力を得たのは、主に北海道大学大学院文学研究科国文学専攻

の朴均轍君（全羅南道出身）^⑤、北海道大学文学部言語情報学講座研究生の金恒汨君（全羅南道出身）の2人で、補助的に韓国明知大学校副教授の尹相実氏（ソウル出身）にもお手伝いいただいた。なお、金君には、用例収集に関しても協力を得たことを記しておく。

本論を書くに当たって使用した辞書は次の通りである。

『朝中詞典』	（中）	（中国）
『조선말사전』	（조）	（朝鮮民主主義共和国）
『국어대사전』	（대）	（韓国）
『동아 새국어사전』	（동）	（韓国）
『朝鮮語大辞典』	（朝大）	（日本）
『朝鮮語辞典』	（朝）	（日本）

1 本論

それでは以下に、現代朝鮮語における接頭辞내리について分析していくことにしよう。本論では、接頭辞내리について考察するに際し、それと類似の振る舞いをする내리다の連用形と、それに내리다が後項動詞として現れる複合動詞とも関連づけて考察することにした。以下、接頭辞내리가動詞語基に付く形を 내리形、내려가動詞語基に付く形を내려形、接頭辞치가動詞語基に付く形을치形と呼ぶことにする。

1. 1 接頭辞내리に関する先行研究

何らかの形で接頭辞내리に触れている論文で、筆者がこれまで目にしたものは、金鍾埴(1973)と金倉燮(1996)の二つの論文と辞書の記述である。この中、金倉燮(1996)では、本論と関連のある議論がなされている。

A. 金鍾埴(1973)では、接辞の一覧表の中で接頭辞내리に対して、語源は「내리다の語幹」、語義は「上から下へ」、後続要素は「体言・用言」と述

べ、用例として내리카다, 내리긋다, 내리닫이의3つをあげている。

B. 金倉燮(1996)の「第3章 複合動詞の形成」の92ページから94ページにかけて、내리形と 내려形について言及している箇所がある。

そこでは、내려形を次のようにa.b.の2つに分類している。

a. (승강기가) 내려가다「(エレベーターが)降りてくる」, (강스파이크를) 내려꽂다「(強いスパイクを)打つ」, 내려디디다「踏みしめる」, (사람을) 내려보내다「(人)を下に送る」, (사람을) 내려보다「(人)を上から見る」, (人)を見下す」, (모자를) 내려쓰다「(帽子を)目深にかぶる」, 새가 내려앉다「(鳥が)降りてとまる」, (산에서) 내려오다「(山から)降りてくる」, (사진을) 내려찍다「(写真を)下に向けて取る」(값을) 내려치다「(値段を)値切る」(지방으로) 내려쫓다「(地方へ)追放する」

b. 내려갈기다「殴りつける」내려깔기다「大小便をまき散らす」(눈을) 내려깔다「目を伏せる」내려누르다「上から押さえつける」내려긋다「下の方に線を引く」(번호를) 내려매기다「番号を上から下に付ける」(수염을) 내려쓸다「髭をなで下ろす」내려비추다「光などが照りつける」내려비치다「光が射す」내려쏘다「銃・矢などを下に向けて撃つ」내려쏟다「水などを上から注ぐ」내려지르다「風が激しく吹き降ろす：上から蹴る」

そして、a.b.のグループについて次のように説明している。

「b.의 내려+V2型は、辞書でそれぞれ내리+V2型複合動詞の非標準語として扱われている。これらを非標準語として扱った理由は、これらが方言形であるからではなくて、ただ同義関係にある対をなす2系列の語彙で、내리+V2型を標準語として選んだからである。」

さらに、내리型和내려型のどちらを標準形にするかは、辞書によっても異なっていることを指摘している。このことから、ソウル方言ではかなりのゆれがあることが分かる。ところで、上で、a.とb.とに分類していることか

ら、a. にあげてある語形に関しては、내려形のほうを標準形と見ていられるが、インフォーマントに確認すると、必ずしも내려形のほうが標準的だとは言えないものもあるという。

後にも触れることになるが、a. にあげてある語形の中には、내리다が本動詞として使用されているものと接頭辞的に使用されているものとが混在しており、これは区別して考える必要がある。何故なら、내려가다（降りていく）、내려오다（降りてくる）、내려서다（降りて立つ）などでは내려形が交替形として存在しないが、そのほかの語形には내리形が交替形として存在するからである。

ところで、金倉燮氏は、同時に次のような興味深い指摘をしている。それは、내리形は後続動詞の間が分離できないのに、내려形のほうは後続動詞との間に 만, 는, 들, 도などの副助詞を介入できるというものである。それ故、내려のほうは接頭辞として認識できないが、내리의ほうは接頭辞として認識できる可能性があると述べている。そしてまた、辞書の記述でも、내리는すべての辞書が接頭辞と認めているのに対して、내려를接頭辞と認めている辞書は一つもないとも述べている。

しかし、내려と後続動詞との間には自由に他の形式が入れるわけではなく、限られた副助詞のみである。また、내려形であっても、例えば내려앉다は「降りて座る」のように本来の基本語義を維持して結合している場合は分離できるが、「不安になる」と言う具合に全く別の意味になっている場合は分離できないというインフォーマントもいる。今のところ、내려の中には接頭辞化しつつあるものもあると捉えて、その場合の내려를準接頭辞として扱うことにしたい。⁽⁶⁾この接頭辞と語幹の分離の問題、複合動詞の分離の問題は改めていろいろな角度から考察しなければならないと考えられる。

さて、この내리, 내려についての著者自身の考えはどうかと言えば、同著20ページから21ページにかけて次のように述べている。

a. (선을 아래에) 내려긋다「(線を下に)下げて引く」、(명령이) 내

려지다「(命令が)下される」, (짐을) 내려오다「(荷物を)下へ降ろす」

b. (승강기가) 내려가다「(エレベーターが)降りていく」, (강스파이크를) 내려꽂다「(強いスパイクを)打つ」, (발을) 내려디디다「(足を)踏みしめる」, (사람을) 내려보내다「(人を)下へ送る」, (사람을) 내려보다「(人を)上からみる；見下げる」, (모자를) 내려쓰다「(帽子を)目深にかぶる」, (새가) 내려앉다「(鳥が)降りてとまる」, (산에서) 내려오다「(山から)降りてくる」, (사진을) 내려찍다「(写真を)下に向けて写す」

そして、さらに「a.의 내려は独立した動詞내리다と同様、'上から下へ動く／移る'の方向＋移動の意味を持つが、b.의 내려は方向の意味を持つだけで移動の意味は持っていない。」と述べ、続いて、「――自立性のない他の語基の前にのみ現れたり、後ろにのみ現れたりするものに固定している点で、原理的には接頭辞や接尾辞と異なることはない。」と述べている。⁽⁷⁾

C. 辞書の記述

次に辞書の記述がどうなっているかを見ると同時に、辞書の記述の問題点についても触れてみたい。

辞書の記述は、それまでの研究成果がどの程度の水準に達しているかを反映していると考えられるから、辞書の記述がどうなっているかを見ることは大いに意味があると思われる。しかし、結論から言って、本論に関連のある接頭辞に関する研究が未だ十分ではないということもあるが、辞書の記述はどれも不十分でしかも非常にわかりにくいと言える。筆者等が編集した辞書においても、この接頭辞に関しては、十分納得のいく記述になっているとは言えないということを、反省を込めて指摘すると同時に、将来改訂版を出す機会があれば、ぜひこの成果を生かしたいと考えている。

さて、辞書の記述で、接頭辞내리의意味をわかりにくくしている原因としては次の点が考えられる。

- A. 副詞の意味と接頭辞の意味とが混同して記述されていること
- B. 내리形と 내려形との関係が曖昧になっていること
- C. 本動詞の用法と接頭辞的な用法、さらには補助動詞的用法とが区別されていないこと
- D. 내리形と意味の上で対立する 올리形, 올리形についての記述が辞書によって異なっていること

A.

a. 『조』では、副詞の項に、接頭辞的な用法として記述している。

내리 副

①上から下へ向かって

②初めから最後まで下に向かって

——편지를 내리 죽죽 읽었다. ——手紙を最後まで休まず読んだ

③(接頭辞的に用いられて)《下へ》《むやみに》

b. 『中』も上に同じ。

c. 『대』

내리 副

①上から下に向かってまっすぐ

②最初から最後まで。ずっと

올 겨울은 내리 춥다. 今年の冬はずっと寒い

내리 세 시간을 서 있었다. 3時間ずっと立っていた

내리 頭

①ある動詞や名詞の前について「上から下へ」の意味を表すことば

②「勢いよく、やたらに」の意味を表すことば

d. 『우리』

내리 副

①上から下に向かって

②初めから最後まで。ずっと。

이번 방학은 내리 바빴소. 今度の休暇はずっと忙しかった

내리 接頭

「一部動詞の前について、' 下に向かって' ' やたらに、むやみに' の意味を表す

e. 『동』

내리 副

①上から下に向かって

②ずっと。続けて。

여름내 내리 덥다. 夏中ずっと暑い

내리 接頭

「一部動詞の前について、' 下に' ' むやみに' の意味を表す

f. 『朝大』

내리 副詞

①上から下に向かってまっすぐに、下に、下方に

줄을 내리 그어라. 線を縦に（上から下へ）引け

②初めから終わりまで、始終、続けざまに、ずっと、続けて、引き続き

내리 열 두 시간이나 자다 続けて（ぶっ通しで）12時間も眠る

③容赦なく

내리 接頭

（一部の動詞について）上から下へ；むやみに、やたらに

내리くだ 線を引き下ろす；내리깎다 ひどく値切る

g. 『朝』

내리 副詞

- 1 上から下へ向かって、上から下へまっすぐに
- 2 始終、ずっと、続けて
내리 사흘 동안 비가 왔다. 続けて4日間雨が降った
- 3 容赦なく

내리 接頭

- 1 「上から下へ」の意を表す
내리사랑 내리치다
- 2 「むやみに、やたらに」の意を表す
내리퍼붓다 降り注ぐ

ちなみに、내리의反復形が副詞として使用される例もあげておこう。

내리내리 副詞 ずっと続けて

내리내리 딸만 셋을 낳았다. 続けて娘ばかり3人産んだ
그 집은 내리내리 학자가 나온다. その家は代々続けて学者が出ている

以上の記述を見ると、副詞の意味の「ずっと、続けて」の場合は、例文があがっているが、副詞の意味の「上から下へ」と、接頭辞の意味の「上から下へ」に関しては、ほとんどの辞書に例文がないので具体的にどういう意味なのか、よく分からない。幸い、f. 『朝大』に副詞と接頭辞で同じ動詞を使った例が出ているが、「線を縦に（上から下へ）引く」と「線を引き下ろす」とどのように違うのかよくわからない。実は、調査してみると、내리긋다は「線を縦に引く」で내려긋다は本来の意味が「（下の方に下げて）線を引く」であるが、내리긋다と同様、「上から下に向けて線を引く」という意味でも使用されることがわかる。そしてこれらに対して、그어내리다という語もあり、これは내리긋다と同じ意味で使用される口語形ということがわか

るのである。

また、내리で始まる動詞を各辞書に当たってみると、中に내리외다（내리외우다の縮約語）、내리읽다等の語形を見出し語としてあげているものがある。

ところが、その語義は내리외다 については、「最初から最後まですらすらと暗唱する」となっている。インフォーマントに聞いても、別に「上から下へ」という方向性はないという。しかも、この場合、내리와외다の間には時間などを表す形式を自由に入れることができるし、また、내리가「ずっと続けて；次々と」という意味であればほとんどの継続動詞と共起できるし、特殊な文脈であれば瞬間動詞とも結合できる場合もあるのだから、⁽⁸⁾わざわざこれを語彙化して辞書に登録する必要はないということになる。내리읽다の方も、『대』では、語義として「上から下へ読む」だけをあげているが、『조』『동』では、「上から下に向かって読む」の他に、「休まず読み続ける」という語義をもあげている。インフォーマントによると、「上から下へ読む」という意味では、あまり使われない言葉で、その意味では、一般に、읽어내리다のほうがよく使われ、縦書きのものを上から下へ読む場合も、横書きに書かれたものを、行に従って縦に読む場合でも使え、また、漢文の「読み下す」という意味でも使用されとのことである。その一方で、나도 처음엔 의아심을 품고 그 선전문을 읽어내려갔다.（私も最初は疑いの気持ちを持ってその宣伝文を読み進んでいった）のように、後項動詞の내리다 が「方向」の意味を失っていると思われる用例もある。これに対して、내려읽다 は縦書きのものを上から下へ読む、という意味でしか使われないという。とすれば、この내리읽다を辞書に載せるにしても、まずは、接頭辞としての「上から下へ」という語義を載せておき、更に、教育的配慮から、내리가「ずっと続けて」という副詞の意味で使用される用例も、分ち書きをして載せることにすれば分かりやすくなるし、それと併せて내려읽다, 읽어내리다との関連性についても記述しておけばなお一層わかりやすくなるのではないかと思われる。

結局、내리의副詞の意味と接頭辞の意味との混同を防ぐためには、내리とそれに後続する動詞との間に自由に他の形式が入るかかどうかという基準を立てることが必要なのである。

B.

A.의 내리워다のところでも説明した通り、내리形には내려形と交替するものが多く、その場合ほとんど同じ文脈で置き換えることができる場合が少なくない。しかも、中には내리다が後項動詞として現れる複合動詞も同じ文脈で使用される場合が少なくないのである。これまでこれらは相互に関連づけて説明されることがなかったことも、接頭辞내리의意味をわかりにくくしている原因の一つになっていると思われる。

C.

내려오다「降りてくる」、내려가다「降りていく」、내려서다「降りて立つ」等の動詞は、내리다が本動詞として使用されているもので、これらに対する交替形である내리形はない。それ故、接頭辞の用法について言及する場合は、それらを除外しなければならない。といっても、まだ問題は残っている。つまり、내려보다の場合は、내리다が本動詞として使用され、それに補助動詞의보다がついて「降りてみる、降ろしてみる」という意味で使用される場合と、接頭辞내리의交替形として使用され、「上から下を見る：見下げる」⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾という意味で使用される場合があるからである。

D.

『조』では、올리를副詞として扱い、次のように記述している。

①下から上に向かって

올리도 뛰고 내리도 뛰다. 飛び上がりもするし、飛び降りもする

②(接頭辞的に用いられて)《上に》の意味を表す

また、見出し語として、次の語をあげている。

올리건다, 올리굽다, 올리닫다, 올리달리다, 올리밀다, 올리뛰다,
올리쏘다

『中』でも、やはり올리를副詞として扱い、語義として『조』と同じ記述をしている。そして、見出し語として次の語をあげている。

올리건다, 올리굽다, 올리닫다, 올리달리다, 올리몰다, 올리밀다, 올리
받다, 올리불다, 올리숫다, 올리추다, 올리뛰다, 올리쌓다, 올리쌓이
다, 올리쏘다, 올리뛰다

一方、韓国の辞書を見ると、それとは対照的であることがわかる。『대』には、올리의項目はなく、올리의ついた語としては、올리닫다, 올리데리다の2語しかあげていない。また、『동』も同様、올리의項目はなく、しかも올리의ついた語形は1語もあげていないのである。

インフォーマントによると、치形は치밀다, 치숫다などを除いて他は会話ではあまり使われず、文章語の性格が強いと言う。⁽¹¹⁾

1. 3

さて、これまでのところを整理すると、次のようになるう。

厳密な意味で、接頭辞としての내리를捉えようとすれば、まず내리의副詞の用法を除外しなければならない。そのためには、後続する動詞との間に自由に他の形式を入れることができるかどうかという基準を立てる必要がある。次に、내리다가本動詞として振る舞うものを除外する。その際、내려+보다, 놓다等のように、내려が本動詞として振る舞うものと、내리의交替形として接頭辞的に振る舞う場合とがあることに注意する必要がある。

2 내리의接頭辞としての用法

それでは、次に接頭辞내리가どのような使われ方をしているかを、내려形と내리다가後項動詞として現れる複合動詞とも関連づけて考察することにす

る。ただし、今回は내리形以外の形については補助的に扱うことにし、3つの形式の相互の間の全体的な考察は改めて行うことにしたい。

2. 1 내리와 내려の違い

この両者の関係に言及するに際して、まず내리와 내려とがどの点で異なっているかを見ることが、両者の共通点を浮き彫りにすることになると思われるので、そこから始めることにする。

a. まず내리는接頭辞として名詞と動詞の両方に付くのに対して、내려は動詞にしか付かないと言う点である。つまり、名詞に付く場合には交代形として내려形がないということである。

ここで、내리가名詞に付く例をあげておこう。

내리닫이 1 上下続きの幼児服

내리닫이 2 上下に開閉する窓

내리막길 下り坂 오르막길 「上り坂」

내리받이 = 내리막 치받이 「上り坂」

내리사랑 親から子への愛 치사랑 子から親への愛

내리사랑은 있어도 치사랑은 없다 「上からの愛はあっても、下からの愛はない：上の者は下の者を愛せるがその逆は難しい」

b. 내리다가複合動詞の前項動詞として現れ、「降りる・降ろす」という意味で使用される場合は、내리와는交替しない。

例えば、내려앉다を例にとると、「不安になる」という意味では내리와交替して내리앉다と言えるが、「上から降りて座る」「オンドル部屋で上座に座る」⁽¹²⁾という意味では내리앉다 は使わない。

c. 내리는後続する語基に「強調」の意味を与えることがあるが、내려にはそのような働きはない。

ところで、辞書によって、見出し語として내리形を出しているもの、내려形を出しているもの、さらには両形を出しているものがある。では、내리形と내려形とがいかなる関係にあるか、特に両形が存在する場合、意義に違いがあるのかどうか。あるとすれば、どのような違いがあるかの、といったことについての適切な説明が、文法書は勿論、辞書にも出ていないのである。多くの場合、語によってどちらの形になるか固定して現れているので、一見しただけでは、語によって내리をとるか내려をとるかが決まっているような印象を受けてしまうのだが、実際調査してみると、両形をとる動詞が意外に多いことがわかるのである。勿論、それらが常に同じ意味になるかということそうではないのだが、どの辞書の記述も決して分かりやすいとは言えない。例えば、『동』では、同じ語基に내리, 내려が付いた形を載せて、以下のような語義を載せている。

내려긋다	(線を)下の方に引く
내리긋다	(線を)下の方に向かって引く
내려쏘다	(弓矢・銃などを)下に向かって射つ
내리쏘다	(弓矢・銃などを)上から下を見て射つ
내려쓰다	①(文字を)下の方に書く ②(帽子を)額より下に下げてかぶる
내리쓰다	上から下へ文字を書いていく。縦書きに書く

この説明を見て、내려と내리의意味の違いがわかるだろうか。特に外国人にとっては、この説明だけで両方の使い分けができるとはとても思えない。

내려쓰다, 내리쓰다については、ソウル出身の人をはじめ、全羅道出身の人あまり使わない言葉だというのが、もし使用するとすれば、上のような違いは別になく、同じ意味で使用できそうだと言う。また、내리긋다と내려긋다については、前述したように、韓国人の間でも混乱があるようだ。ところで、次の例では、내리는必ずしも上下だけの方向を表しているわけではない。

칼을 내리그어서 얼굴에 상처를 입혔다.

ナイフを(上から下に又は横に)振って顔に傷を負わせた

내리쓰다と내려쓰다との間にも同様のことが言え、その意味では『동』の記述は正しいと言えるが、내려쓰다는また내리쓰다の意味でもしばしば使用されるのである。

3 내리形の意味

接頭辞내리는、後続する語基に対して、「上から下へ」という「方向」の意味と、「激しく、速く」などの「強調」の意味を付加するとされる。

今、내리形を意味の上から分類するに際し、「方向」と「強調」という二つのパラメータに、対語として올려形または치形が存在するかどうかという特徴も加えて分類すると次のようになる。

3. 1 「方向」+ 「強調」+

A. 対語として올려形または치形が存在するもの

1. 自動詞・他動詞

내리뻘다

2. 他動詞

내리갈기다 내리긋다 내리치다

3. 自動詞

내리닫다 1 내리달리다

B. 対語として올려形や치形が存在しないもの

1. 自動詞・他動詞

내리붓다 내리쏟다 내리찍다 내리퍼붓다

2. 他動詞

내리까다 1 내리갈기다 내리꽃다 내리누르다 내리받다 2 내리밟다

내리쓰다 1 내리지르다 내리쫓다 내리찍다 2 내리패다

3. 自動詞

내리꽃히다 내리놀리다 내리박히다 내리쏟아지다 내리쫓기다

A. の動詞は対語として올려形または치形を有するので上下の「方向」の対比を比較的明瞭に表していると思われる。

B. の1. の 내리붓다は自他動詞となっているが、本来붓다は「注ぐ」という意味の他動詞である。それが、接頭辞내리가付いて、「上から勢いよく注ぐ」と「激しく降る」という自他両用の意味を持つことになる。부어내리다という複合動詞は他動詞の意味では使用できるが、自動詞の意味はないという。自動詞の場合は、퍼부어내리다というように퍼붓다を使用する。

例

他 물을 내리붓다 水を勢いよく注ぐ

自 비가 하루 종일 내리부었다. 雨が一日中激しく降った

同じく、A. の1. の내리뻗다は「下に勢いよく伸びる：下に勢いよく伸ばす」という自他両方の意味があるが、この語からほぼ「強調」の意味だけを除いたと言える뻗어내리다という複合動詞もある。そして、これも自他両用の意味で使用される。また、これに意味の上で対立する語は올려뻗다であり、これも自他両用の意味があり、それぞれ뻗어오르다, 뻗어올리다という複合動詞が対応する。ただし、一般的に내리とは異なり、올려には「強調」の意味はない。ここで興味深いのは、올려形も「あがる、のぼる」という本動詞の意味を失い、「下から上へ」という方向の意味を表す接頭辞の役割を果たしているということである。また、複合動詞の後項動詞である올리다「あげる」、오르다「あがる」が語頭ではいずれも올려になり自他の対立が中和している。⁽¹³⁾

また、뻗어내리다 뻗어올리다 뻗어오르다の後項動詞は本来の「降りる；降ろす」「上げる；上がる」という意味で使われているのではなく、方向だ

けを表していると考えられ、補助動詞化したものと考えられるのである。後にも触れるが、他にもこのような用例が出ていることは注目に値する現象である。

2.の内리치다は「打ちおろす」という意味であるが、意味の上で対立する올려치다は「アッパーカットを打つ」という意味を表すときに使用されるといふ。しかし、そうかと言って、내리가いつも「上から下へ」という方向だけを表しているかと言えば、そうではない。내리긋다については、前述したので繰り返さないが、3.의내리달다 내리달리다について言えば、いずれも「走る、駆ける」の意味であるが、언덕 밑으로 내리달았다. という文脈では、「丘の下へと駆け降りた」となるのに対して、말을 타고 황야를 내리달았다. では「馬に乗って勢いよく荒野を駆けた」となり、水平運動についても使用されることがわかる。インフォーマントによると、この場合내려달다 を使うと明瞭に「上から下へ」という方向の意味が出るという。

B.に属する動詞の中には、「雨が激しく降る」、あるいは「光が燦々と降り注ぐ」といった自然現象に関する単語、それに「殴る」、「蹴る」、「踏みつける」などの「打撃」を表す単語が多い。2.にある내리받다 2とあるのは、「ぶつける；ぶつけて壊す」意味で。その用例は以下の通りである。

새가 벽화를 내리받고 죽었다. (鳥が壁画にぶつかって死んだ)
산사태가 집을 내리받았다. (雪崩が家を押しつぶした)

また、1.にある動詞のうち、쪼다, 찌뚫다 はもともと自他両用の意味を持った語であるが、쪼다 の方は、もともとが他動詞の意味だけを持つ語である。しかし、接頭辞내리가付くと、自他両用の働きをすることになる。⁽¹⁴⁾ 쪼다には対応する自動詞として쪼아지다という形もあり、これに接頭辞내리가ついた내리쪼아지다という語もある。一方、쪼아내리다という語もあり、

これも自他両用の意味を持っている。

내리쏟다の用例を示すと以下の通りである。

例 他 성벽에서 돌을 내리쏟았다. (城壁から石を降らせた)

自 비가 내리쏟았다. (雨が激しく降った)

3. 2「方向」+「強調」-

A. 対語として올려形または치形が存在するもの

1. 自動詞・他動詞

내리비치다

2. 他動詞

내리닫다² 내리뜨다 내리밀다 내리받다¹ 내리보다 내리비추다

내리빚다 내리쪼다 내리찍다¹

3. 自動詞

내리뛰다 내리밀리다

B. 対語として올려形や치形が存在しないもの

1. 自動詞・他動詞

내리드리우다

2. 他動詞

내리굴리다 내리카다² 내리깎다 내리깎다 내리꼴다 내리덮다

내리디디다 내리숙이다 내리읽다 내리짚다 내리훑다

3. 自動詞

내리구르다 내리갈리다 내리덮이다 내리뒹굴다 내리볼다 내리쌓이다

내리호르다

A. の1.にある내리비치다に自他両用の意味があることについては、もともと비치다には「照る、映る」という自動詞の意味しかないが、形も意味も似ている비추다と混同されて、他動詞の意味でも使用されるようになっている

のではないと思われる。

2.にある내리받다 1は、①「上から物を受け取る」②「譲り受ける」の意味を表す。ところが、내리다を後項動詞とする複合動詞받아내리다は「物を受け取って下へ降ろす」という意味になり、①の意味とは異なっている。

同じく2.にある내리찍다 1は、「上から写真を写す」という意味を表している。

내리뜨다, 내리밀다 の対語は올려形ではなく치뜨다, 치밀다となる。올려と치とがそれぞれどの語と結合するかについては、辞書に載っている語を見ただけではよく分からないところがある。⁽¹⁵⁾『中』『조』には내리보다を正式に載せているが、韓国の辞書には내리보다を方言として扱っているものが多い。ソウル出身の留学生も、내려보다の方を使用している。

B. の1. の내리드리우다가自他両用の動詞となっているが、本来は「垂らす、下げる」という他動詞である。これが「垂れる、下がる」という自動詞の意味でも使用される。対応する複合動詞 드리워내리다も自他両用の機能を有する。

例

他 나무가 가지를 수면에 내리드리우고 있다. 木が枝を水面に垂らし
ている

自 창가에 내리드리운 수양버들가지 窓辺に垂れ下がった垂れ柳の枝

3. 3 「方向」－「強調」＋

A. 対語として올려形または치形が存在するもの
なし

B. 対語として올려形や치形が存在しないもの
なし

現在のところ、積極的な意味で、これに所属する語は見あたらないが、し

かし、「方向」+に分類した動詞の中には、「上から下へ」という特徴が薄れて、例えば水平方向を表すような動詞も見られるので、そういう場合はこの類に所属させることができよう。

3. 4 「方向」-「強調」-

A. 対語として올려形または치形が存在するもの

なし

B. 対語として올려形や치形が存在しないもの

なし

2. 他動詞

내리 꿰다

내리 쉬다

これまで、この類に所属する語は2例しか確認できていない。꿰다には「糸を穴に通す；串などを刺し通す」という意味があるが、接頭辞내리가付くと、꿰뚫다「見通す；精通する」という意味で使われるのが普通のようにだ。とすると、내리には「方向」・「強調」のいずれの意味もなくなったと考えることができる。一方、쉬다는「息をする」という意味であるが、내리 쉬다となると、意味が抽象化して、「ほっとため息をつく」という意味になり、내리 に「方向」と「強調」の意味はなくなる。

例 합격 통지를 받아 안도의 한숨을 내리쉬었다.

合格通知を受け取って安堵のため息をついた

3. 5 내리形の意味について

내리形の意味を考える場合、後続する語基が有している語義のすべてに関して내리의意味が適用されるわけではない。この接頭辞が付くことによって、語義の中の一部に焦点が当てられて、その他の語義が背後に隠れてしまうと考えられる場合と⁽¹⁶⁾、逆に新たな語義を獲得したと思われる場合もあ

るのである。

例えば、내리비추다の場合、비추다の持つ「映す、暗示する」などの語義は背後に隠れ、「照らす」という語義に焦点が当てられる。また、내리박히다は「心に刻まれる、閉じこもる」などの語義は背後に隠れ、「刺さる」という語義だけに焦点が当てられることになる。

一方、내리꽃다の場合、もともと꽃다 ない「機首を急に下げる」という新しい語義を獲得し、내리지르다は지르다ない「水が激しく流れる、風が激しく吹く」という新しい語義を獲得し、내리앉다 は앉다 ない「不安になる」という新しい語義を獲得した。

내리쉬다も쉬다が「息をする」という意味であるのに対して、「安堵のため息をつく」というように意味が特殊化し、내리앉다 同様、方向の意味を失ってしまっているわけである。

さらに、붓다、드리우다のように、いずれも他動詞の意味しか持たない語が、내리가付いて自動詞の意味まで獲得したものがあり、ある意味では品詞を変える役割を果たしているように見えるものもあるのが注目される。

4 내리다の補助動詞的用法

내리形、내려形に対して내리다を後項動詞とする複合動詞が対応する場合があることについては前述した。その場合、後項動詞の내리다 が明らかに「降りる、降ろす」という原義を維持しているものと、単に「方向」だけを表していると思われるもの、それに「方向」の意味さえも失っていると思われるものがある。次の훈어내리다 깎아내리다 놀러내리다を例にとって説明してみよう。

처음부터 마지막까지 다시 한번 노트를 훈어내려 왔다.

初めから最後までもう一度ノートを調べてみた

내가 날 꺾어내렸다면서? お前が俺をこき下ろしたんだって

무너진 기둥이 나를 눌러내리고 있었다.

崩れ落ちた柱が私を押さえつけていた。

선배가 위에서 눌러내려서 꿈쩍도 하지 못했다.先輩が上から押さえつけているので動くこともできなかった。

これだけを見ても、複合動詞の後項動詞として使用される내리다 の意味の原義である「降りる、降ろす」という意味が希薄化していることがわかるであろう。ちなみに、この내리다の付いた複合動詞は口語形であり、ソウル方言でよく使われる形だと言う。

5. 結論

以上、接頭辞내리의機能について、내려形、내리다を後項動詞とする複合動詞、対語として올려形または치形があるかどうかといったことと関連させて述べてきた。これだけではまだ、接頭辞내리의全体像が見えてきたとは言えないが、それでも、かなり輪郭がはっきりしてきたのではないかと思う。

ところで、今回は接頭辞내りに焦点を当てて考察したため、내려について、내리形の交替形として現れるものだけ扱ったことになる。それ故、내려形はあるが내리形がないもの（例えば、내려보내다「上から下へ人又は物を送る」、내려쓰다「帽子を目深にかぶる」내려씌우다「帽子を目深にかぶらせる」など）は、調査の対象からはずれている。今のところ、내리形と내려形とが共存する意味がよく分からないが、このことについては改めて考察したい。さらに、それに加えて、複合動詞V1+내리다がこれらとどのような関係にあるかについても広範囲に調査する予定である。

最後に、調査の対象となった動詞に関し、上の分類で使用した「方向」

「強調」「올려/치形」というパラメータの他に내려形を有するかどうかというパラメータも加えて分類した表を参考資料としてあげておく。

参考資料

表の見方は次の通りである。例えば、表1にある、自・他動詞の떨다の場合、「方向」「強調」という特徴を有し、내리떨다という形と並んで、내려떨다という形も共存し、떨어내리다という形、올려떨다という形もあることを表している。

1	+내리 +내려 +내리다 +올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
自・他	떨다	비치다		
他	긱다	밀다 받다 1 비추다 빚다 쓰다		

받다 1 : 上から受け取る

2	+내리 +내려 +내리다 -올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
自・他	쏟다 찌다 퍼붓다	덮다 드리우다		
他	까다 1 꽃다 누르다 받다 2 붓다 지르다 찍다 2	굴리다 까다 2 깎다 칼다 끌다 닫다 2 숙이다		

現代朝鮮語における接頭辞내리について

自	패다	읽다 쫓다 훈다		
	달다 1 달리다 꽃히다 쏟아지다	갈리다 덮이다 뒹굴다 뛰다 쫓기다 흐르다		

까다 1 : 殴る 까다 2 : 非難する 받다 2 : ぶつかる

달다 1 : 走る 달다 2 : (窓を) 閉める 찍다 2 : 切る

3	+내리 +내려 -내리다 +올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
自・他				
他	갈기다 치다	뜨다 보다 쏘다 찍다 1		
自	박히다			

찍다 1 : 写真をとる

4	+내리 +내려 -내리다 -올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
自・他				
他		갈기다 밟다 짚다		
自		눌리다 쌍이다		앉다 2

		앉다 1		
--	--	------	--	--

앉다 1 : 下りて座る 앉다 2 : 不安になる

5	+내리 -내려 +내리다 +올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-

6	+내리 -내려 +내리다 -올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
自		구르다 밀리다 블다		

7	+내리 -내려 -내리다 +올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-

8	+내리 -내려 -내리다 -올려/치			
	方向+強調+	方向+強調-	方向-強調+	方向-強調-
他				웨다 쉬다

参考文献

- 武部良明(1953) 「複合動詞における補助動詞的要素について」 『言語民俗論叢』
- 金鍾埴(1973) 「接辞研究 - 接頭辞를 中心으로 -」 『国語学資料論文集 第二輯 形態論』収録
- 姫野昌子(1976) 「複合動詞・「～あがる」、「～あげる」および下降を表す複合動詞類」 『日本語学校論集 3号』
- 森田良行(1978) 「日本語の複合動詞について」 『日本語講座 4分冊』早稻田大学語学教育研究所
- 姫野昌子(1978) 「「～こむ」および内部移動を表す複合動詞類」 『日本語学校論集 5号』
- 国広哲彌(1984) 『意味論の方法』 大修館書店
- 森岡健二(1986) 「接辞と助辞」 『日本語学 3月号 特集接辞』
- 서울대학교大学院国語研究会編(1990) 「国語研究 어디까지 왔나」 (国語研究どこまで来たか)
- 志部昭平(1992) 「日本における朝鮮語研究」 『千葉大学人文研究 21』
- 石井正彦(1992) 「動詞の結果性と複合動詞」 『国語学研究 31』 東北大学文学部
- 国立国語研究所(1996) 『朝鮮語研究 (朝鮮語母語話者に対する日本語教育) 文献目録 - 国内文献及び欧米文献 (1945～1993)』 日本語教育センター・第四研究室
- 金倉燮(1996) 「국어의 단어형성과 단어구조 연구」 (国語の単語形成と単語構造の研究) 『国語学叢書 21』 国語学会
- 門脇誠一(1997) 「現代朝鮮語における接頭辞 내 - について」 日本語と外国語との対照研究 IV 『日本語と朝鮮語』 下巻 研究論文編 国立国語研究所
- 『朝中詞典』 (1993) 中国民族出版社、朝鮮外国文圖書出版社

文学作品

『李朝五百年野談』 李文友 大衆文化社

『李御寧代表에세이집 上下』 李御寧 高麗苑

『世宗大王』 朴鍾和 同和出版公社

『朝中詞典』語彙リスト

配列は韓国の辞書の様式に合わせてある

下線を引いたものは내리形、내려形の両形が載っているもの

なお *の印は調査から除外したもの、○の印は追加したもの

×の印は、내리形がないため除外したもの

내리갈기다 내리구르다 *내리굴라 내리굴리다 내리굿다 내리까다
내리깎다 내리깎다 ○내리갈기다 내리갈리다 내리꺾다 *내리꾼지다
내리꽃다 내리꽃히다 내리누르다 내리놀리다 *내리다지다 내리달다
내리달리다 내리덮다 내리덮이다 내리드리우다 내리디디다 내리덩굴다
내리뛰다 내리뜨다 *내리매기다 *내리먹다 *내리먹이다 내리밀다 내리밀리다
내리받다 내리뵈다 내리보다 ○내리볼다 내리붓다 내리비치다 내리빚다
내리빨다 내리숙이다 내리쉬다 *내리심다 내리쌓이다 내리쏘다 내리쓰다
내리쓸다 *내리엮다 *내리외다 *내리외우다 내리웁다 *내리조기다
*내리죽치다 내리지르다 *내리지지다 *내리질리다 *내리짓모다 내리짚다
내리쩍다 ○내리찍다 내리치다 *내리키다 내리꺾다 내리퍼붓다 *내리후리다
내리훑다 내리흐르다

*내려가다 내려갈기다 내려굿다 ×내려기다 내려갈다 내려꽃다 내려꽃히다
내려놓다 내려누르다 내려덮다 내려덮이다 내려드리우다 내려디디다
*내려뜨리다 *내려먹다 *내려먹이다 내려밀다 내려밀리다 내려보내다
내려붓다 *내려볼다 내려쏘다 내려쓰다 내려쓸다 ×내려썩우다 내려앉다

*내려오다 *내려조기다 내려찍다 내려치다

注

(1)門脇(1997)「現代朝鮮語における接頭辞내-について」

日本語と外国語との対照研究IV『日本語と朝鮮語』下巻 研究論文編参照

(2)치については、金鍾埙(1973)においても、語源は記されていない。また、올리의形については本論でも触れるが、韓国ではほとんど使われず、もっぱら올려の形が使われる。

(3)実は、中期朝鮮語にも既にㄴ리(내리の中期語の形)、내が接頭辞的に使用された例が見えるのである。

ㄴ리누르다(現在の내리누르다)

뽐을 ㄴ리누르다(抑志)「気持ちを抑えて欲しい」『小学諺解』5巻105

내쫓다(現在の내쫓다)

아버 怒야 쏘 내조큰대 「父が怒って再び追い出したので」

志部昭平(1990)『諺解三綱行実圖研究』本文編 §107 汲古書院

少なくとも、これらの語に関しては、意味が現在とほぼ同じだったと思われるが、その当時会話で使用されたものなのか、文章語としてしか使われなかったのかといった点についてはなお、調査する必要がある。

なお、このㄴ리には、「ずっと続けて」という意味の副詞でも使われている例があるので紹介しておく。

子孫은 아ㄴ리며 孫子ㅣ며 後人 孫子를 無數히 ㄴ리 닐은 마리라

子孫は息子であり孫であると同時に、後の孫を(代々)限りなくずっと続けて言った言葉である 『月印釋譜』1, 7

(4)『朝鮮語研究(朝鮮語母語話者に対する日本語教育)文献目録

—国内文献及び欧米文献(1945～1993)』国立国語研究所

日本語教育センター・第四研究室

(5)朴均轍氏は、高校卒業までは全羅南道におり、大学からはずっとソウルで生活を送って来た人である。

(6)この見方は、森岡(1986)のいう「準接辞」という概念に従ったものである。

森岡健二(1986)「接辞と助辞」『日本語学 3月号 特集接辞』

(7)上のb.の「승강기가 내려가다」「새가 내려앉다」「산에서 내려오다」の내려に関して、移動の意味がないとする考えには従えないし、また、逆にa.의 선을 아래에 내려긋다の내려に関して移動の意味があるとする考えにも従えない。方向と移動の問題については再検討する必要がある。

(8)「消える」「死ぬ」などの瞬間動詞の場合であっても、反復を表す次のような文脈では共起できる。

전등이 다섯 개가 내리 꺼졌다. 電灯が5つ次々と消えた

전염병으로 가족들이 내리 죽었다. 伝染病で家畜が次々と死んだ

(9)インフォーマントによると、내려다보다という形があるが、내리보다, 내려보다という形も使用されると言う。

(10)내리놓다にも同様の事情がある。ソウル方言、全羅道方言には내리놓다という形はないようだが、意味上は「降ろして置く」(本動詞+本動詞)という意味と「(前もって)降ろしておく」(本動詞+補助動詞)「下に置く」(接頭辞+本動詞)という3つの使われ方がある。慶尚道方言には「下に置く」という意味で내리놓다という形があるという。

(11)ちなみに、ハルビン大学出身の康氏によると、黒龍江付近の朝鮮語では、치形は치밀다, 치솟다など少数の語を除いて使わず、ほとんど올리形を使うと言うが、このことも辞書の記述と一致している。

(12)オンドル部屋では、火の焚き口に近い方が上座であり、それは部屋の入り口からは離れているので、내리다を使う。この場合は、上から下への方向ではなく、中央から離れた所を指す。

(13)接頭辞내についても同様のことが言える。つまり、接頭辞として使用されるのは形式上は他動詞形が使用されるのだが、意味上は自他いずれをも表すのである。とすれば、내리形についても、それ自体自他両用の意味を持つものだが、他の形から考えて、この내리는実は他動詞形なのではないかと考えられるのである。

(14) 参照した辞書の中で、내리쏟다に自動詞の用法を認めているものはない。しかし、何人かの韓国人に確かめたところでは、明らかに自動詞の用法がある。

(15) 辞書に載っている語で、インフォーマントがほとんど使わないというものが意外と多いので、再検討する必要があると思われる。

(16) 国広(1984)『意味論の方法』でいう「抑圧」という概念で説明できるようにも思えるが、さらに考えてみたい。